



聖陵学院外淵校で校長を務めさせて頂いております世一嘉津男（よいちかずお）と申します。担当は小中学校の算数・数学・理科。数学をこよなく愛し、今だにムキになって子ども達と100ます計算をしている53歳です。

生まれは岐阜市なのですが、小学校の時に、まだ当時「郡」だった海津郡南濃町に引っ越し、南濃中学に通いました。（西濃地区は完全に地元です。東高出身。進路指導お任せください！）運動は好きなのですが、あまり得意なほうではなく、どちらかと言うとガリ勉タイプだったと思います。

中1のときにテニス部の入部試験にパスできず、当時こわおもての先輩ばかりいた野球部に入りました（こわおもてでしたが、皆さん後輩を大事にしてくれたよい先輩方ばかりでした）

思い出深いのは、朝練です。野球部の指導は厳しく、朝、部室に来た順に400メートルトラックを何周するか決められ、自主的にグラウンドを走るよう言い渡されました。1番なら1周、2番なら2周、最後は14名いましたので14周でした。中1の仲間たちはたくさん走るのが嫌で、最初は7:00集合が日に日に時間が早くなっていき、最後には朝4:00に集まった覚えがあります。冬の明けの明星が冷たく輝く早朝に、息を凍らせて毎朝通っていたことが思い出されます。決して悪い意味ではなく、この1年が私の体と心を強くしてくれた、よい経験だったと今も思っています。

月並みではありますが、私は子ども達が、磨き方ひとつで様々な個性で光る宝石の原石だと思っています。そして一番大切な事は、その磨き手である講師自身が、子ども達の無限の可能性を心から信じ、期待を口に、「やればできる！」と励ましていく事だと考えています。この講師の可能性を信じる気持ちが強いほど、鏡のように教え子達も期待に応え、大きく成長していくと信じています。

外淵校ではこの信条をもって子ども達と接し、まず「勉強の仕方」を教えます。ノートの使い方、授業の受け方、まる付け、直し、解き直し・・・わかっているようで誰も教えてくれないこの「勉強の仕方」を長い時間かけて伝えていくことで、「問題に対して、どう解決をはかっていくか」子ども達の将来に重要な力を身につけて頂いています。この力がついた事で、入塾時30点だった数学や理科が70点、80点以上と大きく上がり、「数学、理科は得意！」と言ってくれる子を大勢育ててきました。

最終的には、この小さな成功体験を、志望校合格という大きな成功体験、「自信という心の宝物」に結びつけ、将来、困難や壁にぶつかっても、この時の自分の頑張りを出して立ち向かっていける子どもを育てていきます。

外淵校と一緒に勉強してみませんか？お待ちしております！